

* 伝えることをあきらめない

7月22日（火）、国語の時間に、意見文クラス代表発表会を行いました。3学年の国語では、原稿用紙4枚分の意見文作成に全員で挑戦しています。それぞれの人生や、生きる上で大事にしていること、日頃問題意識をもっていることが表れていて、どの人の文章もたいへん読み応えのあるものでした。

日頃から、わたしたちはいろいろな形でコミュニケーションをとっています。声で伝えること、しぐさで伝えること、積極的に伝えているわけではないのに自然に伝わっていることなど、意識してみるといろいろな形があることに気がつくと思います。「文章を書くこと」というのは、「誰にも邪魔をされないで最後まで自分の考えを表明できる機会」の一つなのではないでしょうか。話している途中、相手の表情をみて遠慮してしまうことや、「こんなことを言ったら困らせてしまうのではないか」と思って口をつぐんでしまうこと、みなさんにはありませんか？もちろん、「書くこと」を苦手としている人もいると思います。特に今回は、文字数の多さに気が遠くなったかもしれません。それでも、書ききることができたことを自信にしてほしいと思います。皆さんは今年度、15歳になる学年です。成人まであと3年。意見文作成をきっかけの一つとして、苦手意識や遠慮ともうまく付き合いながら、「伝えること」をあきらめない人生を送ってほしいと思っています。

それぞれのクラス代表と、意見文のタイトルは、以下のとおりです。

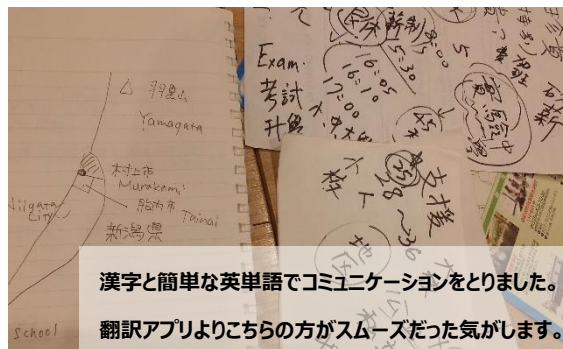
3年1組（発表順）		3年2組（発表順）	
「もうひとつの言語」	安藤大殊さん	「私が描く未来」	齋藤美佳さん
「私の決心」	田澤彩音さん	「今、私たちがすべきこと」	渡邊泰昂さん
「自分から」	山田愛美さん	「心の会話」	根布真璃那さん
「ゲームは必要か」	川崎土結さん	「普通への感謝」	後藤颯斗さん
「創る幸せ」	伊藤綺海さん	「社会の線を消そう」	澤晴子さん
「私からの手紙」	大泉茜さん	「視点のグローバル化」	中野万留さん

8月22日（木）に予定されている「わたしの主張」村上岩船地区大会には、**大泉茜さん**が学校代表として出場します。

さて、わたし自身も先日、「伝えることをあきらめない」って大事だなあと感じたできごとがありました。それは、ゲストハウスで、日本語を話せない方と二人で過ごすことになってしまった時のこと…！ やはり、最初は口をぱくぱくさせる金魚状態になっていました。相手の方は台湾から来た方です（ということをついぶん簡単な英語で伝えようとしてくれていたので何とかわかりました）。教員をしているらしいことも何となくわかりました。でも、お互いに「うまく伝わってないな」という感じはどうしてもあって、もどかしいことこの上あ

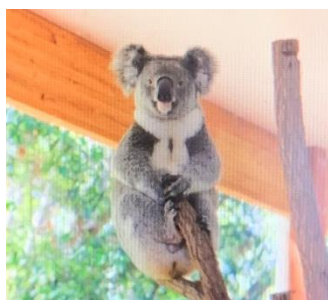
りません。彼女の言うことを必死で理解しようとしながら思い出したのは、「アジアやヨーロッパの人々と思いを伝えあうために、英語を話すことは必要であり、一番楽な方法である」（2組 中野万留さんの意見文より）「とにかく、自分の言いたいことを伝える、ひたすら繰り返す中で話せるようになっていく」（1組 安藤大殊さんの意見文より）というフレーズでした。そうか、私にも何かできるかも。簡単な英語、簡単な英語、うーん…。そんなふうに思っていた時、彼女が取り出したのはペンとメモ用紙。書き始めたのは、漢字でした。そこからは、「台湾の子たちに人気の職業は YouTuber だ」「こんな韓国ドラマをみている」「クラスに41人も生徒がいるの?! でも担任が2人いるのはいいね」「うちのクラスは28人くらいだよ」など、いろいろなことを話すことができました。楽しかったです!

思いのほか、外国の方とつながれるツールは身近にあるのかもしれませんが、やはり大事なものは、「伝えることをあきらめない」ことなのかもしれませんよ。



* オーストラリアをちょっとのぞき見

今オーストラリアに行っている4学年の水戸先生から送ってもらった写真を、少しだけ紹介します。これだけ距離が離れているのに、のぞき見できてしまうとは…技術の進歩はすごいなあ、と思わずにいられませんでした。来年の夏休みは、みなさんがオーストラリアに行く番ですね!



新潟県立村上中等教育学校

TEL 0254-52-5115

FAX 0254-53-6773

学校ホームページ URL

<http://www.murakami-ss.nein.ed.jp/>

電車不通時の連絡

mrk-ss.16@murakami-ss.nein.ed.jp